

家畜への飼料用米の利用

畜産試験場

日本の食料自給率はカロリーベースで39%といわれています。

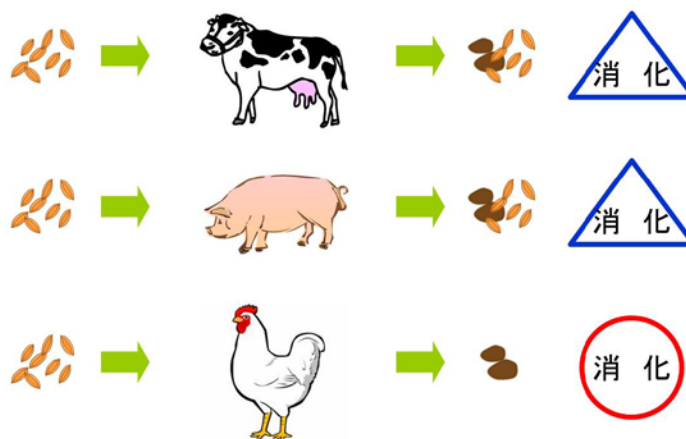
ところで家畜の飼料についても自給率が算出されており、重量ベースで飼料自給率は26%です。また、飼料は稲わらや牧草などの粗飼料ととうもろこしや大豆などの穀物飼料に大きく分けられますが、特に、穀物飼料の自給率に至ってはわずか10%です。

みなさんがふだん食べている豚や鶏は主に穀類を食べていますので、豚肉や鶏肉は国産であっても、食料自給率の向上にはほとんど貢献しません。

一方、お米は日本で唯一100%自給している穀物ですが、実際は米が余っており、100万ha近い水田でお米が作れない状態です。水田に適した作物は水稻ですから、近年水田で飼料用のお米を作る取り組みが始まりました。

その一環で畜産試験場では、お米を家畜の飼料として給与する技術を研究しています。

粳米消化性の動物種による違い



みなさんはお米を炊いて食べますよね。お米のデンプンは炊くことによって消化し易く何より美味しくなります。しかし、家畜へ与える時はお米を生のまま給与しますので、消化はされることはされますが、消化率は低いといわれています。そこで、餌を無駄なく利用するため、牛や豚には粉碎して給与します。

一方、鶏は筋胃という器官があるのでそのまま給与しても問題なく消化できます。筋胃は砂肝や砂ずりとも呼ばれ、焼き鳥などで食べたことがある方も多いことでしょう。鳥類には歯がないのですが、筋胃の中に砂や小石を蓄え、餌をすりつぶしているのです。

担当者

古賀照章 絵：赤羽真理恵

電話番号

0263-52-1188

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[畜産試験場ホームページへ](#)